

記

寫秘

江蘇浙省衛安
成號一詳 (成號用紙) (金井田)

聖敕高收分三三〇七〇號一

大正十三年九月二十日

（奉東蘇浙省衛安局長）

西田重吉局長殿

秋田重吉局長殿

大正十三年十月廿日 記 總務課 受

霞國備兵状況

一、哈爾濱支那駐留兵善集、中ナリシ不
 十エヤ、將軍ハ元同ノ所ナリシ、騎兵將卒
 百八十名ヲ引率シ九月十九日午時四十分
 着奉天、城内ニ向ヘリ、尚同ノカ、直接指揮
 する部隊約五百名、九月十九日、雨、
 二、對善、ハレト云フ

門類項號

外務省

(成號用紙) (金井田)

二

金仁傑ノ誘ニ依リ、同ノ旨ニ於テ善集セシ
 霞國ノ備兵二百四十名、機要脱隊、編入シ
 「エホフ」大佐指揮ノ下ニ奉天軍ヲ三旅長
 張宗昌部隊ニ配属セシ、九月十九日午
 時、付皇姑屯驛ヲ戰線ニ向ケ出發セリ、而
 金ノ洩カ、依リ、而該兵、備兵善集、
 分及、今、善集、總司令部アリ、
 ハレト云フ

外務省

附屬書類添付

外紀第一〇五五六號

大正十三年九月二十四日

大阪府知事

中川 望

機密
受第 6994 號
13. 9. 26

内務大臣 若槻禮次郎殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
指定、統府、縣長官殿

支那動乱に伴う軍需物資下
認公キモノ、商取引ノ実スル件

這次ノ支那動乱に伴ヒ直接間接軍需物資ト認
ムヘキモノ、商取引並ニ其ノ輸出状況ニ関シテハ予テ
注意中ナリ。目下該物資ト推セラルモノ、商取引
品目ハ繃帶、医科器械等ヲ主トセル。生材料ニシテ
晝夜日奉天井上誠昌堂主邦人井上桓東氏之カ
買ニ付、當リモ他主神代仲買商支那人郭永康
等專ラ買入奔走中ニテモ、商談内容ニ就テハ秘

密ヲ嚴守セル向多クシテ之カ詳細ヲ悉シ難キモ月
下概要判明セルハ即チ別表ノ通りニシテ高漸次
戦局ノ拡大持統ト共ニ注文倍々増加ヲ見ルヘキ模
様ナリ
其ノ物資ノ行先ハ精確ナラサルモ別表中ニ武田
長兵衛、森田ヨリ販賣セル繃帶カ在隸軍々需
品タルヘルトノ見評アルノ外孰シモ及直隸派タル
奉天軍及浙江軍々需品タルヘルト觀測セラレ、
アル所ナリ。該貨物ハ鐵路下関ニ向テ輸送セルモ
ノ大部分ヲ右ノ當地ニ貯積セルハ晝夜神代橋
汽船會社ヨリ全市海岸面ニ丁同道衆
店ヘ本日土曜ヨリ向フ十五日間貸貸セル汽船
大黒山丸ニテ本月十二日尙尙捲添輸送セ
ル。越々漸次此種軍需品ノ取引殷盛トナルベ
キ模様ニシテ、注意中ナルカ物資ノ市價
ハ時高ノ影響ヲ受ケ繃帶材料ハ約二割方
値上ヲ爲シ居レルカ然カモ品質ハ内地ノ販賣サ

在正紛擾 戦況

第二課

綴込名 小川 望

13. 10. 1

ル、モノヨリモ下等ニシテ相商、利潤アル趣ニテ各商店
共稍活氣ヲ呈シ居レリ
尙、尙把絹帶、材料、商大素、商店、他、時局ニ
對スル感、相、ラ、タ、記ノ通りニ有之

記

大素商店主、大素弘三等ノ感想
從來ノ支那動乱ニアリテハ、今回ノ如ク一時ニ
大ロノ注、文ヲ受ケタルノ例ナキカ奉天方面ヨ
リノ情報ニ依レハ奉天軍ハ南方浙江軍ト
呼ビシテ、立、隸軍ト生、死ヲ決スヘク、余程ノ快
心ヲ為シ居ルモノ、如ク随テ、動乱ハ容易ニ
終、結ヲ見サルヘシト、伝ヘラル、加之、吳、仲、孚、カ、奉、天
ヲ、侵、掠、セン、カ、日、本、ノ、悔、切、ニ、於、テ、利、權、ハ、根、底、ヨ、
リ、脅、威、ヲ、受、ケ、ル、コ、ト、ナ、リ、之、カ、擁、護、ヲ、為、サ、ム、ト、セ、ハ、直
軍、ノ、背、後、ニ、飛、躍、セ、ル、英、米、ト、衝、突、ハ、免、レ、サ、ル
ヘシト、親、切、セ、ラ、レ、此、ノ、間、ニ、於、テ、日、本、ノ、態、度、ハ

最も慎重ヲ要スル地位ナリ 云々

右及中(通)報候也

支那動乱ニ関スル軍需物資ト認
ムハ中元ノ輸出状況

輸送月日	物資名	價格	送荷人	荷受人	備考
自九月初旬 至今十月	繃帶	約四〇〇〇〇	東亞船務 大森弘次	奉天 全井上誠昌 大連 東亞船務 大森弘次	大段ノ汽車便多シ 大段ノ船便多シ
全	全	約三〇〇〇〇	東亞船務 今永商店	奉天 全井上誠昌 上海 全板栄店	大段ノ汽車便多シ 神戶ノ船便多シ
全	医療器械	約六〇〇〇	東亞船務 波部商店外三店	不明	不明
自九月五日 至今十月	医療用品	約三五〇〇	東亞船務 山口庄兵衛	奉天 井上誠昌 大連 大信洋行	汽車便多シ 神戶ノ船便多シ
自九月初旬 至今十月	繃帶	約二〇〇〇	東亞船務 武田長兵衛	神戶市下 仲買人郭永康	大連經由天津ハ

機密
受第 6991
13. 9. 26

特外鮮秘第二四九八號

大正十三年九月二十二日

福岡縣知事柴田柴三郎

綴込名

西村

大正十三年九月二十二日 記傳機密

内務大臣若槻禮次郎殿
外務大臣幣原喜重郎殿
指定廳府縣長官殿
連内務事務官殿

天津ヨリ渡來支那人ノ戰況ニ關スル談片件

日本駐在公使館學務所第一科主任
政治學士

鄧華芳
當二十八日

右者昨二十一日午前八時五十分天津ヨリ管下門司
入港午前十一時神戸ニ向テ出帆此嶺丸船客ナリ
支那ノ動亂ニ關シテ記ノ通り語りタルヲ以テ御參
考迄及申(通)報候也

記

私ハ這般北京當局ニ對シ福建省ヨリ在日本
支那留學生ノ問題ニ關シ其交渉ノ爲メ歸國中ノ
處今回歸ル途ニアル國ノ戰況ニ就テハ深シ耳
ヲ聞サレタ本月十六日改洛陽ヨリ吳佩孚氏ハ北京
ニ來リ何處カ画策シ居レル模様ナルガ入京ニ際シ各
新聞紙ハ軍事秘密會議ナリト報シ居ルガ北京當
局トシテハ平和ニ落着センコトニ希望セル方針ナリ
且ハ吳氏トシテモ天軍ニ稍々機先ヲ制セテヒタル氣

配アルヲ以テ當局ノ方針ト相俟テ可成運戰主
義ヲ抱キ居ル模標ナリ
蘇浙西軍ハ南范ニテ交戰中ナルガ最近ノ情報ニ
依レバ浙軍ノ慘敗ナルガ如ク報セラレ居ルモ實情
ハ西軍ノ勢力ハ互格ナリ然ルニ不幸ニシテ浙軍ノ敗
戰トナレバ必ズ奉直ノ戰雲益々濃厚トナルベク支
那人同胞者間ニ觀測シ居レリ繼テ蘇軍ノ敗
戰トナルニ於テハ何人カが仲裁ノ斡旋ヲ探ミ平和ニ
ルコト、思料セラル
而シテ奉直西軍ノ戰雲ノ急ナルハ事實ナルモ前
述ノ如ク蘇浙ノ勝敗如何ニヨリ其行動ヲ開始
スル予定ナルモノ、如ク想像セラル既ニ御蒙知々通
リ支那ハ掛声ノミニヨル宣傳戰ナル爲メ或ハ外
部ヨリノ仲裁ニヨリ平和ノ解決ヲナスニ非ラサルヤト
支那有力者某ノ説モアリタリト云々

大臣

電信課長

藤井

次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約
對支文化

要目付

各參軍老

第八九六號

通軍總司令發表

全線ノ報告ヲ綜合スルニ王懷慶量政國ハ、

大軍ヲ集中セテ不日ハ張家口ニ到着スルヲ右ノ如ク

軍ノ大部ハ既ニ熱河ニ到着セリ又胡景翼

ノ部隊ハ平泉至韓家溝ニ到着シ又胡景翼

天々到着シタルハ此ノ全軍ノ配置ヲ終ルベシ

云々、事天ノ影響ハ大ニ

第八九六號

通軍總司令發表

全線ノ報告ヲ綜合スルニ王懷慶量政國ハ、

大軍ヲ集中セテ不日ハ張家口ニ到着スルヲ右ノ如ク

軍ノ大部ハ既ニ熱河ニ到着セリ又胡景翼

ノ部隊ハ平泉至韓家溝ニ到着シ又胡景翼

天々到着シタルハ此ノ全軍ノ配置ヲ終ルベシ

云々、事天ノ影響ハ大ニ

件名

綴込名

本、有、其、大、小、年、九、月、十、日、ハ、

幣、外、教、大、臣、

牙、潭、二、使、

竹石

4

[illegible]

蘇中書局

天
地
人
道

木子
子也

毛些カ
 土ノ事アリテ一レハ
 法皇御見立遠
 例ニテ江ノ越東種々以家費ヲ設ケテ帰任
 之旨出サシメ聞野加石田多美ノ謀ニ屬セ
 據ル詔函中韓ハ是日奉ト連線ヲ訂ルハ
 各地ノ衆ヲ右使ニ誘觸スん以外ニ日英ノ衆ヲ
 ト通名ノ代表者ト存シ東京ハ政府朝鮮都
 ツ直陽動カズ必死アムコトヲ達意ヒタツハ
 ハ日英使ト金多勢ノ際本使が滿州ニ於テ
 ニ事能クノ動搖ハ日本ノ無慮心スルヲ得タル
 也今ノ上議するコト思ふ所ニ至リ居座候ノ

建言ノ採用ニ直ニ江ノ家録より呼出シ江ノ
岸任ノ岸カナルハ留學生費用ノ厚ナルヲ
慮ル今必需要額ヲ算コト支給スルハ至多
厚任スルト令令ハ江ノ六多ヨリ任スルコト
ハナニ趣ナルカニハ獨斷事行ハ今後ハ
豐著トナカハハ思ハル而シテ目下ノ處彼ハ
種々ナル人物ヲ其配下ニ其メラト計画シ居
ル様様アリ跡通通信自コワーシノ如
ク既ニ領内ニ肩入シ又日本側トナラハ坂西
岡野ノ外ハ各終末佐々木嘉弘等モ肩傭
セシ又坂西海軍大佐(中將ノ勇)及神田
正城等モ備聘スルコトナリ居ル由等

即ち手点。

配付先 外務省

哈調情第三二一號



發送先 松岡、大藏、鐵部長、地部長、海部長、與部長、支社長、各公長、長地長、長鐵長

大正十三年九月二十六日

東京支社長 殿

社長 殿

哈爾濱事務所 長



奉直戰ノ北滿治安ニ及ボス影響 (五)

黑龍沿岸地方支那軍移動情況 (九月二十四日高橋中佐報)

一 張步兵團長及步兵一連歸着

八月三十日宋黑河道尹ニ隨行呼瑪河方面ヲ觀察ヤル步兵二十團々長張凱文ハ帶同ノ步兵一連ト共ニ九月九日黑河原隊ニ歸還ヤリ

二 騎兵交代

黑河原隊大五家子屯ニ駐屯國境警備ノ騎兵第三連ハ八月二十八日瑤瑯原隊ニ歸還第二連ト交代ヤリ

三 逃走軍馬歸還

本春黑龍江結氷中奇克特ニ於ケル騎兵第三連九營ノ軍馬約四十頭ハ放牧中對岸露匪「ボヤルコフ」ニ逃走ヤルタメ予テ武市黑龍縣軍事委員ニ引渡方交渉中ナリシカ八月下旬同氏地ニ於テ完全ニ引渡ヲ終ヘタリ

四 瑤瑯騎兵團長ノ南下

瑤瑯騎兵第一團長吳士傑ハ八月六日黑河ヨリ汽船ニテ哈市ニ向ヒタリ同人ノ話ニ依レハ齊々哈爾濱ニ向フト向奉直戰ニ就キ出張征ノ有無ノ問ニ對シ一定シアラスト答ヘタルモ召喚ニ依リ出發スルトノ噂アリ

五 軍隊一部南下

奉直戰ニ關シ吳督軍ノ命令ニ依リ軍隊一部竊ニ汽船ニテ南下シツツアリ行動ハ極秘ニ附サレアルカ乙カ發表ヲ爲ヤハ黑河附近ノ馬賊ノ跳梁ノ恐レアルヲ以テナリト數不明ナルモ大部隊ハ移動ヤラレサル可シ巴司令ハ出動ヤスト

配付先 外務省



新



31

哈調情三二四號

寫發送先 松岡 大藏 鐵道 興業 經各部長殿

支社長 奉公長 吉公長 齊公長

大正十三年九月二十六日

東京支社長殿

哈爾濱事務所長

社長殿

時局ニ關スル支那軍事

(九月二十五日高橋中佐報)

黑龍江軍ノ出動

吳俊陞ノ率ル第五路軍現在ノ兵力ハ混成歩兵旅二個旅・騎兵二個旅。

江兵二個營(以上黑龍江軍)奉天軍混成歩兵旅二個旅ニシテ洮南・赤峯

關魯線ニ分配サレアルカ最近左記軍隊再ヒ同方面ニ出動セリ

一 滿洲里歩兵第三十二團團長李有田ノ率ル歩兵約千百名ハ九月二十三日

哈市通過南下セリ

二 海拉爾歩兵第五十一團團長關海亭ノ率ル騎兵・人・馬各約七百ハ同日

哈市通過南下セリ

尙以上ノ歩・騎兵旅ハ全省ノ步・騎旅中ヨリ若干ヲ選拔シテ編成セル混
成旅ナリ

尙黑龍江軍騎・歩兵計三個團ハ滿洲里・海拉爾間ヨリ陸路洮南ニ南下ス
ヘシト

一 江防軍隊ノ第二次南下

當地江防軍ノ第一次南下ハ曩ニ報告セル所ナルカ九月二十二日再ヒ左ノ

軍隊南下セリ

一 將校十五名 水兵約二百名

二 機關銃十六銃

三 四礮半大礮五門

而シテ目下停泊中ノ軍艦六隻ノ乘組水兵合計三十名ニ滿タサルニ至レル
ヲ以テ陸戰隊六十名ヲ各艦ニ分配乗組マシメタリ

三 江防司令毛鍾才赴奉ス

九月九日張作霖ノ購入セル巡洋艦二隻輕巡洋艦一
隻潛航艦五隻ノ技術檢
査ノ爲毛鍾才ハ十九日赴奉セリ

四 第十八旅騎・工。輜重。營ハ哈市集中
護路軍内ノ消息ニ依レハ張作相ハ第十八旅旅長張煥相ニ宛テ第十八
旅所屬ノ騎・工。輜重營ヲ哈市ニ集中セシムル機電命シ來レリ
五 列國ノ直軍援助ニ關スル張昨霧ノ通電
護路軍總司令部ハ本月二十一日張作霖ヨリノ密電ヲ接受セルカ該電報
中列國ノ直軍援助ニ關スル通告左ノ如シ
「北京政府ハ歩兵銃及水上飛行機購入ニ關シ英・米・白三國トの間
ニ或種ノ契約ヲ締結セリ
「天津ニ在リシ多數ノ白國武器彈藥ハ直軍ニ交附サレタリ
「吳佩孚ノ幕僚トシテ六名ノ米國武官採用サレアリテ彼等ハ一切ノ
作戰ニ任シ居レリ

機密
受第 118 號
13. 9. 26

亞細亞局

第一課

機密第一一三號

大正十三年九月十七日

在哈爾濱

總領事 山内四郎



外務大臣 男爵 幣原喜重郎 殿

義勇兵ノ奉下ニ係スル件

首題ノ件ニ係シ注意中ノ處奉天軍事當局ニ
於テハ當地ニ於テ白黨系露兵旧軍人中ヨリ義勇兵ヲ
募集集中ナリシガ昨十六日陸兵隊ニ属スル者二十五名機関
銃隊ニ属スル者十五名ヲ奉下セシメタリ
尚奉天軍這敏ノ義勇兵募集ニ係シテハ露兵系黨側

在哈爾濱日本帝國總領事館

ニテハ何等干渉スル處ナキモ多数ノ密偵ヲ放シ應募
者ノ氏名年令等ヲ調査セシメテ監視ト云フ
右諸君考査及報告候 敬具

本館寫送付先

在支公使 奉天總領事

吉林總領事

極秘

機密
受第 273 號
13. 9. 26

秘

軍令部次長

在支公使館附武官

綴込名

山崎

影

亞細亞局

第一課

北平

海軍部

東

13. 9. 26

第八十七番

一奉天側ハ九月月上旬當口ニ於テ支那都統ヨリ祥利、廣利（共ニ約二千噸）ノ二商船ヲ海賊討伐用トシテ強制的ニ買収シ現ニ旅順船渠ニ於テ武装中ナリト云フ
本件頃来直隸側ノ謀知スル所ナリ
其ノ旅順出港ニ際シ之カ拿捕ノ計画ヲナスト共ニ近ノ日本側ニ抗議スル所ナリト云フ

要目付

渤海艦隊各艦其後修理不可能ノ為僅低速力行動ニ耐フルヲ以テ此際航海ニ堪ル程度ノ修理丈ケニテモ施行シ度トテ三菱側ニ交渉スルト同時ニ金策ヲ努メウ、アリ或ハ若干ノ調達成功セハ先ニ海琛ノ汽管ヲ替フ行フ予定ナリト云フ
因ニ同艦隊中状態最モ良好ナルハ駆逐艦同安ナリト云フ

九月十四日

機密 576 13. 9. 26
秘
電報
參謀次長宛
第九號
二十二日山東省ニ戒嚴ヲ布ク、區域ハ津浦、山東鐵道沿線、濟南省城及芝罘其他沿岸各港灣
天津、濟南、菊池少佐
大正十三年九月二十五日
九月二十四日午後八時着
綴込名
第二課
左
新
ヤ

政記

第十五回 大正十三年九月二十六日 在牛莊日本領事館
○軍事

奉軍西行



一 本月二十三日午前四時十分第二十五旅步兵第五十團
第一營外軍需品積才一ヶ列車錦州通過綏中
方面に向フ

一 同日午前六時十分同旅同團第二營外軍需品ヲ
積才セル一ヶ列車同上

一 同日午前八時三十分同旅同團本部及第三營外軍
需品ヲ積才セル一ヶ列車同上

一 同日午前九時第十二旅步兵第五十九團第一營及彈
藥馬匹其他軍需品積才一ヶ列車同上

一 同日午前十時半同旅同團第二營及軍需品ヲ積才セル
一ヶ列車同上

一ヶ列車同上

一 同日午前十一時同旅同團第三營及軍需品ヲ積才セル
一ヶ列車同上

一 同日午後一時三十分第五十九團本部機關銃隊一ヶ連
迫撃砲隊一ヶ連機關銃迫撃砲其他軍需品ヲ積才
セル一ヶ列車同上

一 同日午後四時第十二旅步兵第四十六團第一營及軍需
品ヲ積才セル一ヶ列車同上

一 同日午後六時同旅同團第二營及軍需品ヲ積才セル一ヶ列
車同上

一 同日午後九時同旅同團第三營及同團本部機關銃隊
迫撃砲隊各一ヶ連外軍需品ヲ積才セル一ヶ列車同上

一 本月二十四日午前十時第十二旅砲兵一營砲車彈藥車馬

12 旅

25 旅

旅

旅

一等ノ軍需品ヲ積オセル一列車同上

一日午前三時四十分同旅騎兵一營外ニ馬匹等ノ軍需品ヲ積オセル一列車同上

一本月二十日午前五時三十分第二十五旅歩兵第八團第三營及馬匹彈藥其他ノ軍需品ヲ積オセル一列車錦州駅通過綏中方面ニ向フ

一日午前七時十分同旅同團第二營及馬匹荷馬車等ノ軍需品ヲ積オセル一列車同上

一日午前九時同旅同團第一營及機關銃隊迫撃砲隊各一連外ニ軍需品ヲ積オセル一列車同上

一日午前十時騎兵第二旅第十九團第一營及馬匹其他ノ軍需品ヲ積オセル一列車錦州駅通過興城方面ニ向フ

一日午前十時三十分同旅第十九團第二營及馬匹其他ノ

旅

軍需品ヲ積オセル一列車同上

一日午前十一時第二十五旅歩兵第五十四團第一第二兩營及馬匹彈藥其他ノ軍需品ヲ積オセル一列車同上

一日午前十一時四十分同旅同團第三營一營及馬匹彈藥其他ノ軍需品ヲ積オセル一列車同上

駐錦二十七師歩兵一團砲兵一團綏中ニ出動

一日錦西縣方面ニ出動シ歸來セル二十七師十九旅歩兵第三十團第一第二兩營及馬匹荷馬車等ノ軍需品ヲ積オセル一列車本月二十日午後七時十分錦州駅ヨリ綏中方面ニ出動セリ

一日錦西縣ヨリ歸來セル十九旅三十團第三營及馬匹荷馬車等ノ軍需品ヲ積オセル一列車本月二十日午後九時三十分同上

一歩兵第三十團本部機關銃隊一連迫撃砲隊一連及彈藥馬匹荷馬車等、軍需品ヲ積オセル一列車本月二十日午後九時二十分同上

一前、錦西縣ニ出勤シ歸來セル二十七師砲兵第三團第二營及砲車馬匹彈藥等ヲ積オセル一列車本月二十二日午後十時四十分同上

一同砲兵第三團第三營及砲車彈藥馬匹等ヲ積オセル一列車本月二十二日午後十一時二十分同上

一同砲兵第三團本部及第三團第一營外、砲車彈藥馬匹等、軍需品ヲ積オセル一列車本月二十二日午後十一時五十分同上

○一般狀況

一麥粉輸入 營口ヨリ麥粉三千袋海路式克ニテ西海口ニ到着シタルヲ以テ當地一三聯軍兵站處ハ搬入ノ多ク本

月二十日馬車六十輛ヲ西海口ニ派遣シ二十二日午後八時兵站處ニ歸來セリ

一錦州糧市場 從來錦州穀物市場ハ東西南北ノ四隅ニ開設セラレシ處諸種ノ不便アルヲ以テ同地商會ハ一所ニ於テ取引ヲナシメントシ今日電燈廠後空地ヲ該市場ニ指定セリ

一營口近況 營口北方利溝千ヨリ荷馬車四十台及大石橋附近ノ田舎ヨリ荷馬車十台ヲ徵發シ九月二十六日午前九時營口東海關前ヨリ河北駅經由錦州ニ向テ發送セリ

12427

新
省
本
省
著
幣
原
外
務
大
臣
中
野
信
正
代
理

第三九號

第三九號

其後、以有官帖、二百四十帖、墨、落、セ、ハ、ニ、
書局、ノ、各、縣、ニ、通、ル、官、帖、買、占、ニ、依、リ、
賣、リ、テ、今、日、百、九、十、帖、余、リ、ナ、リ、
少、ク、奉、天、ニ、轉、賣、済、ム、

(長、手、中、信、正、大、臣、ノ、代、理、ハ、五、一、〇、)



12470

幣原外務大臣

芳澤

北支那

大分県

己、五〇
七、四五



第九一
時分、干元大總統令在、
(一) 曹錕、兵站長、曹錕、
(二) 曹錕、兵站長、曹錕、
(三) 曹錕、兵站長、曹錕、
(四) 曹錕、兵站長、曹錕、
(五) 曹錕、兵站長、曹錕、
(六) 曹錕、兵站長、曹錕、
(七) 曹錕、兵站長、曹錕、
(八) 曹錕、兵站長、曹錕、
(九) 曹錕、兵站長、曹錕、
(十) 曹錕、兵站長、曹錕、

芳澤

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

對支文化

陸海軍

藤村

件名

綴込名

戦況

12477 (145)

北京

十二月九日

午後二時

外務省

芳澤公使

九〇四号 (極秘)

張作霖、弟兄張作霖、目下北京に在る。前日、奉天戦争に於て吳佩孚に致す同一人、張作霖の手で殺せられた。陣地、引揚が、吳に占領され、終句奉天軍、敗北、振作する困難あり、為に、魯銀、之う、氣毒かり、機会、了らば、何年か、方法、以て、報い、し、居る、由、に、今日、戦争、に、於て、直隸軍、奉天、に、略取、せ、る、後、

宣撫使、トシテ、奉天、に、選り、張作霖、に、代り、し、る、方、有、る、吳佩孚、に、同意、し、居る、と、云、ふ、事、實、が、吳佩孚、等、に、欲、する、程度、に、張作霖、の、引退、に、止、り、張作霖、の、海、外、に、遊學、せ、る、と、い、ふ、事、が、古、い、間、に、張作霖、の、子、に、對、して、其、の、最後、に、部分、に、九月、九日、新、大、連、信、員、引、見、に、際、し、吳佩孚、が、決、り、た、と、い、ふ、事、に、對、し、各、り、相、信、し、て、居、る、と、思、い、ら、れ、る、事、に、對、し、



次官

亞細亞
歐米

任

72970

此書
本者

大正四年四月廿六日

己、
五、
己、
五、

綴込名	件名
成	
	

五

[Handwritten signature]

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約 對支文化

各參軍老

第九〇一号
時令に干る方總令九ノ道
(一) 曹鏡兵站軍需總監
副及子令セラル
(二) 倉庫元増行兼領？
セラル(以上五日付)
(三) 浙江陸軍第一師長湯玉麟の力有之助(予補後)

癸卯年

政

第十六回 大正十三年九月二十七日 在牛莊日本領事館

軍事

奉天軍朝陽占領ノ報

一、二十五日朝陽ヨリ錦州ニ來レル一商人ノ語ル所左ノ如シ
本月十八日大敗ヨリ進軍セル奉軍ト松嶺門ヨリ進軍セル奉軍ト馬營子ニ於テ集合シ其後馬營子ニ集合ノ奉軍ハ朝陽城包圍攻撃ノ陣形ヲ肉迫シ双方力戰奮闘ニ晝夜ニ亘レリ二十一日ニ至リテ直軍ハ朝陽城内外ノ商家全部ヲ掠奪シ散々伍々一半ハ赤峰方面ニ一半ハ凌源縣方面ニ退却セルヲ以テ奉軍ハ道ヲ分ケテ追撃シ二十二日第一師司令部入城スルヤ直ニ安民ノ布告ヲ朝陽城内外至ル所ニ張り出セリ二十三日電報局ノ修繕成ルマ直ニ朝陽占領ノ勝報ヲ總司令部ニ發シ一師司令部ハ員派

シテ市街ヲ整理シ開店中ノ商舖ヲ慰問勸誘シテ一齊ニ開業セシメタリ朝陽城内外ノ各戸ハ留守居ノミ殘留シ他ハ全部避難シ人影稀ナリシモ奉軍ノ秩序整然タルヲ聞キ知リボツク歸來シツアリ

朝陽市街ノ商民ハ今次ノ戦争ニ受ケタル損害頗ル莫大ナリト云フ

一般狀況

地方公益會創立

錦州
軍隊需要ノ物品ヲ供給ナスモノニ當地商務會内ハ最ニ軍用支用局ナルモノヲ新設シタル旨既報セシカ今回當地ノ有力者ハ之レヲ事務機關ヲ設ケ軍民双方ノ不利不便ヲ除カントシテ密々協議中ナリシカ愈々地方公益會ナルモノヲ創立スルニ決シ事務所ヲ保甲總所内ニ設ケ本月二十三日ヨリ左ノ如キ

事務ヲ管掌スルコトニキリト云フ

一、軍隊需要ノ物品供給事務

一、人夫車馬ノ徴発ニ関スル事務

一、軍隊ニ對スル交渉事務

一、錦縣全境ノ自衛事務

一、軍隊ヨリ命セラレタル諸般ノ設備ニ関スル事務

以上

機關車到着

奉榆鐵路ハ機關車不足ニ軍需品輸送ニ差支フルヲ以テ先
般來吉長鐵路局ニ機關車借入レ方交渉中ノ由ナリレガ本
月二十四日吉長鐵路局、機關車四台奉天ヨリ錦州駅ニ到
着セリ

機密
受第 183 號
13. 9. 27

秘

陸同文

電報

參謀次長宛

天電第一一四號其一

二十三日山海關東方番家屯附近ニ於テ奉軍

ノ威力偵察アリ爲ニ直軍ハ若干ノ死傷者

ヲ出シ二十三日貨車數台ニ積載後送天津

ヲ通過セリ

ニ引キ續キ毎日奉軍飛行機ハ山海關陣

地及灤州以東ノ集中地ヲ偵察爆撃シ

ツ、アリ宣傳文ノ撒布ノ人心ニ及ホス効果

要目付了

亞細亞局

第二課

綴込名

大正十三年九月二十六日

九月二十六日午前九時四十分着

天津軍司令官

漸ク大ナラントス日本兵營附近ニ落下ス
ル爆彈少ナカラス注意ヲ望ム(續ク)

讀末者

附屬書類添附

亞細亞局

至急

第二課

綴込名

大正十三年九月二十六日

九月二十四日午後一、〇〇發
九月二十五日午後七、五五著

北京坂西中將

機密
第581號
13. 9. 27

電報

參謀次長宛

坂電第一六一號

軍事處員、密告ニ依リハ昨二十三日吳佩孚

ハ馮玉祥ノ第一路、張之江ノ第七混成旅ハ速

カニ建平ニ第二路李鳴鐘ノ第八混成旅ハ赤

峯ニ、第十三師ノ一旅ハ遵化ヨリ建平ニ向フ

ノ命令セリ且孫岳ノ混成第十五旅ハ既ニ

全部北京ニ入り治安維持ニ任スハク胡景

翼ノ陝西第一師曹世英、陝西混成第二旅

モ即時出發王懷慶ノ第二軍ノ指揮下ニ入

ルコトトナレリト之ヲ要スルニ吳佩孚ハ奉天

ノ主カク大凌河西岸地區ニ集中シアルモノト

判斷シ其山地方面第三軍、左翼ヲ張リ奉

軍、右翼ヲ包圍セント企圖シアルモノノ如シ

又北京、天津以南地區ニ集結セル所謂援軍

ノ各隊ハ其後逐次北京附近及北京、天津間

ノ地區ニ集中シツアルカ如シ注意ヲ望ム

關東、天津、上海、奉天、濟

第一課		第二課	
米局		米局	
要目付了 機密 受第 286 13. 9. 27 關機高收第二二七三六號ノ一 大正十三年九月二十二日 關東廳 警務局長 第一課 關東廳		要目付了 機密 受第 286 13. 9. 27 關機高收第二二七三六號ノ一 大正十三年九月二十二日 關東廳 警務局長 第一課 關東廳	
元セミヨノフ軍ノ騎兵旅團長タリシネチヤエフ少將ハ張作霖ノ招聘ニ依リ本月九日哈爾濱ヨリ來奉シ保安總司令部某參謀ト特種部隊ノ編成ニ付協議セル由ナルカ募集將卒ノ給料ニ關シ同少將ハ一箇月兵卒ニ對シテハ三十弗以上將校ニ對シテハ五十弗以上ヲ要求シ戰死傷者ニ對スル慰籍料並解散手當等ニ關シ種々提議シタル由ナルモ張作霖ノ指示ナリト稱シ給料ハ要求ノ半額トシ其ノ他ニ就テハ何等ノ確答チ與ヘス容易ニ協議ラサルヲ以テ同少將ハ特種部隊ノ編成ヲ斷念シ九月十五日哈爾濱ニ向ケ出發セリ今其ノ内容ニ付探聞スルニ張作霖ハ最初露		奉天軍補兵露國人通過ノ件 本月十七日朝五時三十分哈爾濱ヨリ奉天軍補兵露國人四十八名元露國征軍大佐ステクロフ引率シ長春着同日午前六時二十分奉天ニ向ヒ南下セリ同行ハ前同回露奉天軍特別機關銃教導隊ニ編入セラルルモノナリト云フ一行中元騎兵大尉シレクトルスキーハ長春ニ止マリ同地避難民中ヨリ志願者ヲ募集スルト云フ 以上	

國ニ依リ特種部隊ノ編成ヲ企畫シ特ニ右少將ヲ哈爾濱ヨリ呼寄セ既ニ募
集ニ準備中ナリシニモ拘ラス中途ニシテ斯ノ如ク不調ニ終リタル原因
ノ裏面ニハ北京駐在勞農政府代表カラハンカ東三省ニ於テ露國白軍殘
党ヲ募集シ特種部隊ノ編成ヲ企畫シ居ルトノ情報ヲ得其ノ旨本國政府ニ
打電シタル模様ナリ勞農政府トシテハ白軍殘党カ支那同胞戰ニ參加スル
コトハ別ニ差支ナキモ彼等カ僅カノ手富ヲ受ケ外國ノ傭兵トナル其ノ反
面ニハ必ス機ヲ得テ勞農露國ニ對シ反亂ヲ惹起セントスルモノナリトノ
口實ノ下ニ張作霖ニ對シ大要左ノ如キ抗議ヲ申込ミタルニ起因スルモ
ノナリト云フ

貴奉天省ハ貴國內亂ニ當リ露國元白軍殘党ヲ募集シ部隊ヲ編成セントス
ルノ企畫アル地ナルカ若シ之等カ機ヲ得テ勞農露國ニ對シ反亂ヲ惹起ス
ルカ如キ場合ハ其ノ責任ヲ貴省ニ於テ負増スルヤ本政府ハ遺憾ナカラ右
企畫ニ反對ス云々ト

以上

關東廳

東 方 通 信

九月廿七日第八號

守島

廿六日唐山發東方通信

政況

余（東方通信特派員）は廿五、六日に亘り率直戰線を觀察したが唐山以東の鐵道は全力を盡して第九師の兵を輸送中で普通列車は運轉しない廿五日午後六時西方から近畿重砲兵司令部高射砲大隊の紫色の旗を立てた一列車が着いた、之れには高角度射撃砲を裝置した大形自動車と輸送用の自動車が続いてある。中には何所て狩り集められたが大勢の苦力が不安氣に乗つてゐた毎日東方に輸送される軍用列車は晝は三回、夜は間斷なく出て行く、唐山に留の日本人は全部で六軒約二十名で萬一の場合にはアメリカ兵營内に避難することになつてゐる。瀋州は連日飛行機に襲來され驛には少數の兵士が居るのみで多くの兵士は日本兵營の外壁に近かく集まり大部隊はどこへか影をかくしてゐる、城内の支那兵營に第十五師の司令部がある瀋州には特別の防禦工事はされてないが同地は水深く鐵橋の外には橋がない

東 方 通 信

「廿七日第八號ノ二」

その橋は六名の日本兵が監視してゐる、廿五日六台の奉天飛行機は瀋州の上空から廿六個の爆弾を投下したが支那人が二名負傷したのみであつた。

東 方 通 信

九月廿七日第五號

廿六日天津發東方通信

◎奉軍營來襲を虞れ太沽附近海邊防禦工學中
奉軍が海から来るのを防ぐ爲め第二十六師の歩兵一箇中隊他兵
二箇中隊は太沽左岸日本砲台附近に同岸獨逸砲台附近に歩兵三
大隊他兵若干防備工事中である。

東 方 通 信

九月廿七日第十五號

廿七日奉天發東方通信

◎奉天軍の出動員は約十萬

奉天の出動部隊は吉黒兩省の疲軍も殆ど戦線に出發し軍隊輸送は
先づ一段落を告げた状態である既に今日までに出動の奉天軍は第
二十七師と十三個混成旅(歩兵三十八個中隊)騎兵三個旅(騎兵
十四個中隊)砲兵四個中隊にして總兵數は概算約十萬人である、
之が戦線に於ける配備は大略次の如し

山海關方面	三萬六千人
錦州方面	二萬三千人
朝陽方面	一萬六千人
開魯方面	一萬五千人

東 方 通 信

九月廿七日第二號

◎奉直戰水引かん

廿六日天津發東方通信

直隸軍は決戦を怠ぎ全速力を以て全兵力第九師團第十一師團の
輸送に従事し輸送状態は混亂を加へながらも九月中には略々完
了し十月初より攻撃を開始する意圖らしく他方奉天軍は充分強
營の準備をなし當分決戦を避け好機を待つ策をとるものと
傳へらるも奉軍の第一線は例も猛將揃ひだから或は意外に早
く主力の衝突を見るかも知れぬ然し今回の戦争は其れ其他策
等から見ても軍事専門家間では戦機は相當に永引くものと観測さ
れてゐる。

水引

電信課長

大臣

次官

12

藤田

部外務大臣

平塚領事

12486 晴

赤峰 大正七年九月 廿七日
幸有看 廿八日午前五

件名	赤峰
綴込名	赤峰

亞細亞 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約 對支文化

總陸海參軍

第七部

赤峰ノ内領ノ領北ノ最近奉道ノ関係
接連ト共ニ西三日以來當地ノ錦州ノ向テ
輸送中ノ高品質駄馬約五百ハ途中
朝陽ニテ俄ニ官憲ヨリ徴發セラレタル地
軍隊ト共ニ武器彈藥類ヲ阜新及義
州方面ニ向テ急送ニ輸送中ノ又當地敵軍
一部(六七百ナラム)及烏丹城方面ノ

軍隊ノ不取敢同魯經東朝陽方面
向テ急送ニ輸送中ノ又當地敵軍
一部(六七百ナラム)及烏丹城方面ノ
赤峰ノ内領ノ領北ノ最近奉道ノ関係
接連ト共ニ西三日以來當地ノ錦州ノ向テ
輸送中ノ高品質駄馬約五百ハ途中
朝陽ニテ俄ニ官憲ヨリ徴發セラレタル地
軍隊ト共ニ武器彈藥類ヲ阜新及義
州方面ニ向テ急送ニ輸送中ノ又當地敵軍
一部(六七百ナラム)及烏丹城方面ノ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

對支文化

陸海參軍

件名
綴込名

成



臣

12492 (四番) 奉天費大正十二年九月二十日前入
幣平外務大臣 航津總領事

赤崎 芝 中官宛電報

大臣宛往電第八号ニ関シ確ナル節
アリ諸情報ヲ綜合スルニ阜新ニ
ニ朝鮮 (ニヤチ道走) 終東ニアリ
ニ同軍ハ同魯方面ニ何シモ戦ハスニ
逃去西地ハ既ニ奉軍ノ占領ニ降

セシノ如ク貴電第一二号ニ關シ奉
軍ノ配備現狀ニ付不明ナル程
東熱河義軍ト熱河歩騎合計
約一千騎ニ歩騎六百五十騎東
同二面同魯ニ歩騎六百五十騎
北中ニ知事月十二日頃ヨリ馮玉
祥ノ部下ニ兵峰口ニ向ヘ直軍
一部ハ既ニ熱河及凌源平泉等
ニ大々進出シ模範ハ朝陽ニ歩
騎千五百同軍ハ朝陽ニ西及

目下移動中 又王懷慶一ノ一師二
旅ハ近々玉ト共ニ熱河ニ到着 米都統
ハ毅軍ノ一部（砲二十挺）用銃六十ト共ニ
移住ニ当地ニアリシチウキニウ氏ハ近々朝
陽方面ニ出動 同方面ヨリ格輝ニ當リ
ニト觀察セラル 尚管内住民ハ時局
ニ對シ降ノ氣心セサルニ如キ天從來
熱河側ノ徵稅 過重ナルト毅軍一般
ノ素質劣悪（午當不渡等ノ力）常
良民ヲ甚シメツアリシト反感トニ依リ
以陽寧口奉軍ニ占領セラルトヲ希
望シ居ルモノノ如ク在リ 今後当方面奉

直西軍ノ勝敗ニ重大ナル意義ヲ實不
ミト思惟セラル
大臣ハ轉覺ヲ傳フ 在支公使ハ轉平セリ

幣務大臣

芳澤公使

大正十三年九月十七日



計成軍ノ際、成リタルニ所要軍費ノ
籌給、現下ノ財政状態ニ照ラシ、頗ル困難
目ヤラシ、或ハ外國銀行團ニ接洽スベシト
爲シ、或ハ金法案ノ解決ヲ期スベシトモ、
之次ノ同種ヲ擔保トスル國庫券及崇ノ
文門稅收ヲ以テ、多トスル特別國庫券費
計、計畫カシ、報道アリ、最近ニ
倉石、欽、通、借款ノ締結、依リ、約ナ
シ

滿洲ノ所、資金成立ノ報、元カ、其ノ年、至
テ、政府ハ窮餘ノ災義捐金ヲ流用シ、
当面集眉ノ軍費ニ充ツベシト、風説サヘ
傳ヘシ、之ガ九月二十七日、王、財政總長、出、
田ニ所シ、至、曹總統及吳佩孚ノ懇望
ニ依リ、重化シ、之ノ軍費ノ調達ニ付テハ
元ヨリ確メ、成算アリ、アラ、不從テ、事
難治、中、難精ニ要ス、經費ノ調達ニ刻
ニテ、一、派、善ノ努力ヲ盡スベキ、莫大ナ
シ、軍費ニ充テ、一、刻、其費ニ生シ、難キ
事ヲ、留、保、シ、就、任、セ、次、才、ナリト、先
以、際、金、法、案、ヲ、一、審、ニ、解決スベシトノ

報道ヲ否認シ更ニ滄石鉄道借款成
立後又王ノ間知セサニナリハ附言シタ
上今口迄ノ処軍隊移動等ニ要スル費用
ハ專ラ總統府方面ノ電達及曹總統
吳佩孚等ノ内諭ニ依リ地方ヨリノ募集
ニ依リ地方ヨリノ回金ニ意外ニ多額ニ
上リ
奉天ノ轉電ニ天津ノ略送セリ

12488 (昭)

帝外務大臣

芳澤使

第九の三号、
山東、二十二、湖北、二十、河南、五十、
その他ヨリモ二三、
部軍常駐、
中心、
徴発、
行動、
目下、
軍常駐、

イテ之の、
同岸、
コト、
無、
下、
假令、
派、
斯、
ト、
真、
ヨリ、
封、

66

各參軍老

對支文化 平和條約 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐米 亞細亞

次官 大臣

電信課長

龍

幣外務大臣

芳澤公使

12484 (平) 北省署 大正十三年九月二十八日 前九三九

綴込名 件名 戦外

孝貞親王

張作霖討伐の理由、既に大總統令
に依り明し、中央の合法政府、威令
ヲ以テ内乱ヲ鎮定ス、モコレヲ各友邦
亦支那ノ統一ヲ希望ス、至情ニ基キ
深ク之ヲ諒トシ同情ヲ表ス 沿途
策九ノ八号
吳佩孚討逆軍總司令ノ名ヲ以テ
長文ノ布告ヲ發シ、其要旨左

外に居留民ノ生命財産ヲ條約ニ照
シテ厚ク保護ス、殊ニ南滿洲鉄
道及日本居留民多ク、故ニ之ヲ關係甚
ク密接ナシ、願ハ必不安レ、之ヲ從業
セシメ、市街ノ損失ナカラシメ、以テ唇齒輔
車ノ信義ヲ盡シ、日支親善ノ精神ヲ
貫徹ス、ヘシ云々
奉天ニ轉電セリ

1244

(平) 北高農大 正十二年九月 二十八日 前 七、八

幣 外務大臣 芳澤公使

第九ノ八号
吳佩孚討逆軍總司令 名ヲ以テ
長文ノ布告ヲ發シタルガ其要旨大

張作霖討伐ノ理由ハ既ニ大總統令
ニ依リ明ナリ中央ハ合法政府ノ威令
ヲ以テ内乱ヲ鎮定スルニシテ各友邦
亦支那ノ統一ヲ希望スルノ至情ニ其至キ
深ク之ヲ諒トシ同情ヲ表ス 沿 述

外に居留民ノ生命財産ヲ條約ニ照
ラシテ厚ク保護スルヲ殊ニ南滿洲鉄
道及日本居留民多ク取ニテ關係甚
ク密接ナルニ顧ミ必ス安レシテ從業
セシメ市街ノ損失ナカラシメ以テ唇齒輔
車ノ信義ヲ盡シ日支親善ノ精神ヲ
貫徹スヘシ云々
奉天ニ轉電セリ

改次

東 方 通 信

九月廿八日第三號

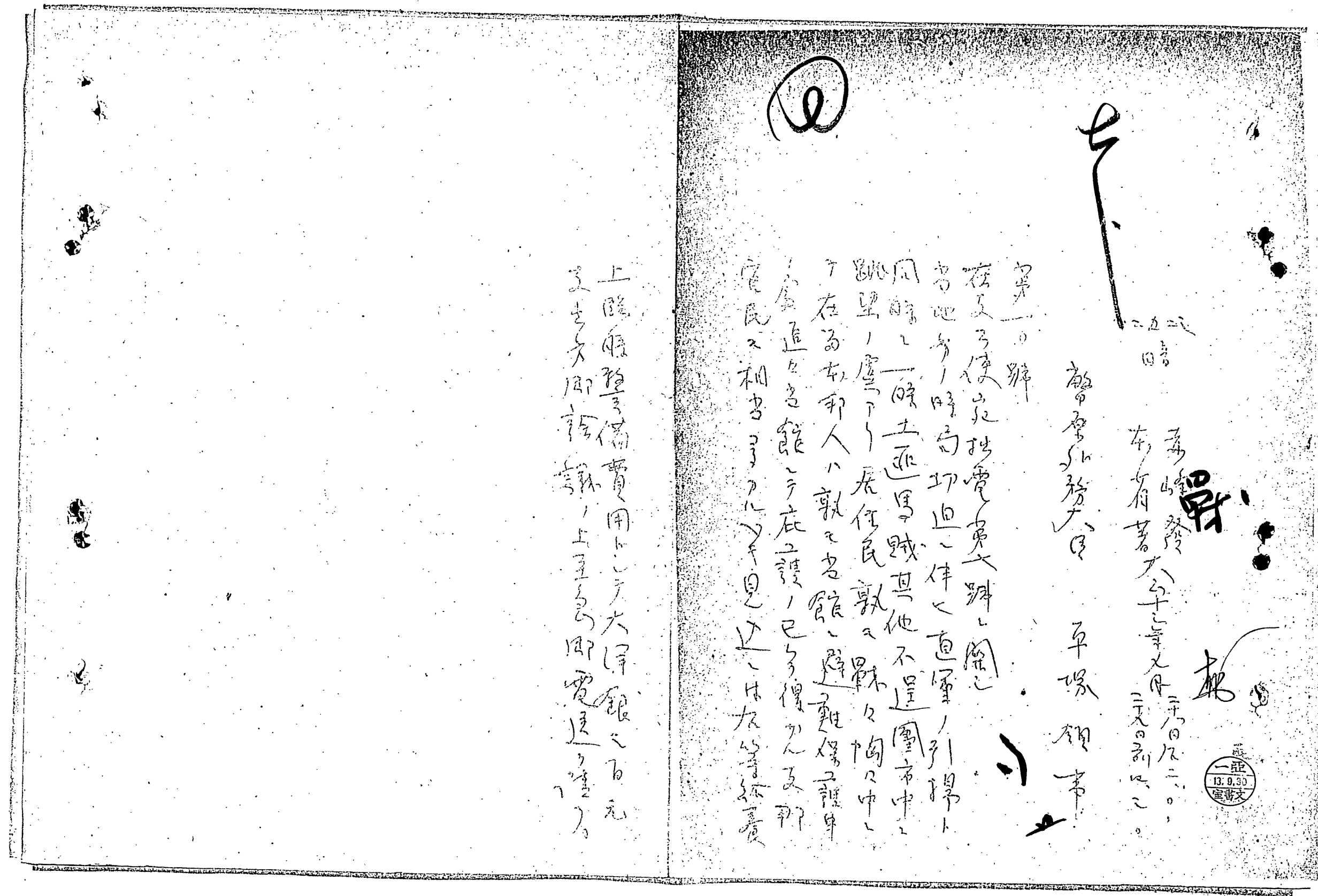
〇〇〇

廿八日北京發東方通信

◎直隸派は新に第四軍を編成

政府は新に第四軍を編成し廿七日總統令で廿六師長曹錕氏を總司令に、曹本浩、曹士傑、兩氏を副司令に任命した。

政
況





亞細亞局

第二課

公第六一號

大正十三年九月二十日

要目付了

在新民府

分館主任 遠山 峻



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

奉直固軍事行動開始ニ関ス
當地方ニ於ケル情報報告ノ件

本件ニ関ス本月十四日附公第六十號
拙信ヲ以テ報告申進置候次第有之候
處其後ノ情報何等御參考迄左ニ報

奉天總領事館新民府分館

告申進候 敬具

左記

一 本月十一日夜遼陽ヨリ陸路来新セル
第一旅中第二十五團ノ兵八十四日午後
十時ヨリ十五日午前十一時迄ノ間ニ於テ
當地瓷臨時軍用列車ニテ錦州方面
へ輸送セラレタリ

一 本月十四日夜奉天方面ヨリ陸路當地
ニ来レル獨立機團隊(三個連機團銃二
十四兵員三百名)ハ十七日當驛ヨリ鐵
路山海關方面へ向ケ出發セリ

一 鄭家屯駐屯第二十五旅(旅長蔡平本)
旅團本部及同旅ニ個團(五十四團)一歩

兵約三千六百名其他同旅騎兵第
三團(四個連)約六百騎ハ本月十四日ヨ
リ同十六日迄ノ間ニ陸路奉天方面ヨ
リ來新ミタルカ右ノ内騎兵團ハ十七
日陸路西方ニ向ケ當地ヲ出發シ其他
ハ鐵路ニヨリ同西方ニ輸送セラレタ
リ某到着地ハ興城若ハ綏中ナルヲミ
イフ
ハ右第二十五旅ノ中第六十團(步兵三
個營兵員約千八百)ハ十八日奉天方面
ヨリ陸路當地ニ來リ各根據地ニ分宿
中ナルカ右ハ兩三日滯泊ノ上興城方
面ニ向ケ出發ノ豫定ナリト云フ

奉天總領事館新民府分館

ハ奉軍ノ出勤開始以來奉榆間ノ列
車ハ多ク軍用ニ供セラレ當驛ニ於ケル
一般客車ノ發着著シク不定期トナリ
一日中一回ニ發着ナキトスラアリ一般
旅客ノ不便一方ナラズ且奉天ヨリ當
地ニ到着スルヤ普通貨物ノ輸送久
シク杜絶スルニ當地ニ於ケル穀類石
炭等必需品ノ拂底ヲ未タニ就中在
留民ノ常食タル白米ノ搬入不能トナ
リ和商野藏ノ方已ニ賣盡セルニ際シ
一方當支那軍憲ハ一般商賈所有ノ穀
類乃至麦粉等至要糧食ノ全部ヲ封
鎖シ甚小賣ト雖容易ニ之ヲ為サズ

ルノ有様ニシテ自然糧食價格ノ暴騰ヲ誘致セリ然ルニ在留民ハ價ノ如何ヲ問ハズ飯米代用品トシテ高粱、麥粉等ヲ買入ントスルモ支那商ハ之ヲ販賣ヲ拒ハノ状況ニシテ日支人共糧食ノ購求ニ困難ヲ告ケ居ル次第ナルニ付當館ニ於テモ目下在留邦人ノ糧食供給策講究中ナリ

一 新民縣内ニ於ケル馬賊ノ跳梁未タ止マス當地警察所巡警、騎馬巡警及保甲事務所甲丁等合セテ二百名ハ各百名ヨリ成ルニ隊ニ分レ之ヲ討伐ノ為本月十日縣下王三戸屯(新民縣街ヲ距ル西北方約四十里)及公至屯(新民縣街ヲ距ル北方約十二里)ノ二方面へ突

奉天總領事館新民府分館

々出動セリ
一 當新民縣街警察所員及保甲事務所員ノ過半数ハ前述ノ如ク馬賊討伐ノ為強ント附近各地ニ出動スルコト

多ク自然市中ノ警備ニ當リ手薄トナリ加之時局ノ為他地方ヨリ戰線ニ向ケ出動スル軍隊ノ當縣街ニ於ケル出入頻繁トナリ一般商民ノ馬賊乃至暴行兵ニ對スルノ危險一方ナラザルヲ以テ當地支那商務會ニ於テハ縣公署關係當局ト協議ノ上市中警戒ノ為約百名ヨリ成ル自衛團的ノ游撃隊

ナルモノヲ編制ニ隊員ニハ一定ノ
制服ヲ着用セシメ且ツ銃砲彈藥
ヲ携帶セシメテ一般市中ノ警備ニ
當ラシムルコトナリ
之レが實施ヲ見ル筈ナリ
奉天總領事館新民府分館
本信寫送付先
在支公使

奉天總領事館新民府分館

附屬書類添付

普通
受第 377 號
13. 9. 29

門部

亞細亞局

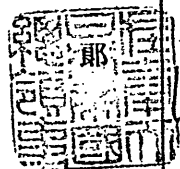
公第 三二六 號

大正十三年九月二十二日

在奉天

總領事 船津辰一

綴込名



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

奉直時局ニ關スル件

(時局情報第七報)

本信寫送付先、在支公使、上海總領事、

要目付了

在奉天日本總領事館

一、奉軍副司令ノ更任

奉軍ハ發ニ各軍ノ統率者ヲ軍長梯隊長トシテ任命シアリシカ更ニ軍長ヲ司令ニ梯隊長ヲ副司令トシ副司令ニ左ノ通り異動アリタリ

第一軍司令 姜登選、副司令 韓麟春、

第二軍司令 李景林、副司令 張宗昌、

第三軍司令 張學良、副司令 郭松齡、

第四軍司令 張作相、副司令 丁超、

第五軍司令 吳俊陞、副司令 關朝璽、

第六軍司令 許蘭洲、副司令 吳光新、

二、野戰病院開設準備

新民府ニ野戰病院ヲ開設スヘク目下準備中ナリ

三、蒙古王族奉軍援助

蒙古各旗王族ハ奉軍ヲ援助スヘク援兵五千ヲ戰線ニ出動スル旨聲明セリト

四、奉省々議會議員選舉日延期

在奉天日本總領事館

奉天省々議會議員選舉ノ初選ハ本月二十日實施ノ豫定ナリシカ奉直
時局ノ爲メ各選舉區ハ奉軍ノ出動ニ依リ治安維持ニ全力ヲ盡シアル
實狀ナルヲ以テ初選期ヲ來ル十月一日ニ延期スルコトニ決シ其ノ旨
各縣ヘ通告セリト

五、軍官來往

張總司令ト協議ノ爲九月十四日ヨリ滯奉中ナリシ黑龍江督軍吳俊
陞ハ十七日夜將校衛士等四十名ト共ニ任地ニ向ケ出發セリ

陸軍二十七師長兼航空處長督辦張學良ハ九月十七日午後差辨十名
ト伴ヒ駐屯地錦縣ニ向ケ出發セリ

六、奉派軍隊移動

第八旅將校兵士二百四十名馬二百二十一頭野砲八門、過小銃三門
ハ九月十七日朝營長楊振衡之ヲ統率シ長春ヨリ來奉小西邊門外ニ
屯營セリ

第二十七師步兵第四十一團第一營長趙秉清及第三營長姜向春ハ將
校士卒一千名ヲ率ヒ九月十五日夜奉榆線ニテ沙後所ニ向ケ出發セ

在奉天日本總領事館

リ

第二十七師旅步兵第四十一團々長蘭雲奎ハ該團第二營全部迫撃砲
一個連、機關銃一個連計七百五十名ヲ率ヒ九月十六日早朝奉榆線
ニテ沙後所ニ向ケ出發セリ

砲兵第五團第一營長石育英ハ砲兵二百五十名野砲八門ヲ率ヒ九月
十六日朝奉榆線ニテ沙後所ニ向ケ出發セリ

第三旅司令部參謀長金壽良ハ騎兵百二十名輜重兵大車四十輛驛馬
二百四十頭ヲ率ヒ九月十六日朝奉榆線ニテ女兒河ニ向ケ出發セリ
九月十六日奉榆線ニテ大隈溝ニ向ケ出發セシ第三旅步兵第五十五
團ノ諸部隊左ノ如シ

第一營長 謝玉田 銃率將校兵士一千名

第二營長 徐萬全

第三營長 袁振清

步兵一個營 六百三十名

第五十五團附 刻連佐

輜重一個連 二百五十名

在奉天日本總領事館

爆彈團長 王棟 爆彈團兵百二十名
 砲兵營長 林 券 砲兵一個營（野砲六門）
 工程大隊長 畢庶澄 工兵一大隊五百名
 第二十八團附吳傑ハ同團第二、三營ノ歩兵七百名ヲ率ヒ九月十七
 日夜奉榆線ニテ大窪溝ヘ向ケ出發セリ
 第十四團長楊登舉以下將校六十一名下士卒一千六十三名小銃九百
 三十挺彈藥八千六百七十九斤車輜三十四輛馬匹百五十一頭ハ九月
 十八日朝長春ヨリ着奉皇姑屯驛ニ廻送セラレタリ
 七、北京米國公使館附武官來奉
 北京米國公使館附武官陸軍大尉 Captain Norman L. Baldwin
 本月十八日營口經由ニテ來奉目下米國領事館ニ滯在中ナルカ同ハ
 奉直時局ニ關シ奉軍ノ軍事視察ノ爲ナリト云フ
 八、負傷兵送還
 朝陽寺附近ノ戰鬪ニ參加シタル第一師ノ負傷兵約七十名貨車三輛ニ
 分乗二十日着奉東北病院ニ收容セリ

在奉天日本總領事館

九、直派密偵ノ鐵道破壞計畫
 鐵道破壞ノ爲メ直派密偵數名入奉セリトノ情報アリ憲兵及稽查隊ニ
 於テハ嚴重内偵中ノ處本日皇姑屯ニ於テ容疑者三名ヲ逮捕シ目下稽
 査隊ニ於テ嚴重取調中ナリト
 十、國民軍編成
 王省長ハ地方治安維持ノ爲各縣ニ國民軍ヲ編成シ以テ匪賊警戒ニ當
 ラシムルヘク其ノ編成方ヲ各縣知事ニ通令セリト
 十一、徐樹錚副司令任命
 徐樹錚ハ一昨十九日潛ニ來奉討直軍ノ副司令ニ任命不日錦州ニ向ケ
 出發ノ筈ナリト
 十二、支那側ノ不逞鮮人討伐命令
 興京縣知事蘇顯揚ハ去ル十六日縣内各警察署長ヲ召集シ張作霖ヨリ
 電報アリタリトテ左記ノ如ク命令シタリト云フ

記
 直隸派ハ不逞鮮人ヲ使喚シ武器ヲ貸與シ東三省ヲ攪亂セント計リツ
 在奉天日本總領事館

ツアルヲ以テ鮮人ニシテ武器ヲ携帯スルモノハ發見次第容捨ナク殺害スヘシト

十三、支那兵ノ暴行

新民府ハ支那兵出動ノ爲同地商民ハ暴行ヲ怖レ日没後店舗ヲ閉鎖シテ警戒シアリシカ十八日午後六時目下同地ニ宿營中ナル海軍駐屯第六十團ノ二ヶ營及騎、工兵各二ヶ中隊輜重ノ一部ヨリ成ル混成隊ノ兵數名同地前街質屋業大和田新一方ニ來タリ開戸ヲ蹴リ或ハ瓦石ヲ投スルノ暴行ヲ爲シ更ニ隣家支那人時計店及煙草店ヲ襲ヒ金品ヲ掠奪スル等益々狂暴ノ限リヲ盡シ市民ハ其ノ暴行ヲ怖レ人心恟々タル状態ナリ

右邦人暴行事件ニ就テハ同地分館ヨリ軍隊側及知事ニ嚴重警告シ普通警備ノ外保甲團數名ヲ市街ニ配置シ警備ニ充ツルコト目下嚴重警戒中ナリ尙ホ當地警務署ヨリ在住民保護ノ爲昨二十日更ニ巡查二名ヲ臨時増派セリ

在奉天日本總領事館

機密
第 597 號
13. 9. 29
秘

亞細亞局

第一課 左

陸田文

電報

參謀次長宛

關電第二三一號

楊參謀長、言ニ依ハニテ、八日頃ヨリ第二

軍李景林ヲ以テ建昌ヲ攻撃スヘク又吳光新

及許蘭州ハ無線電信ニテ時々前進ヲ通

知シ来ルモ奔信地共不明ナリ然レモ吳光新ノ

部隊ハ深ク挺進シヤリト信セラレアリ

北京、天津、朝鮮、上海、哈市、スミ

綴込名

關東軍參謀長

九月二十五日午後一時發
九月二十六日午後一時發

大正十三年九月二十七日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

亞細亞局

第一課

關機高收第二二八三三號ノ一

大正十三年九月二十四日

關東廳警務局長

亞細亞局長殿
拓殖事務局局長殿

機密
第991號
13 9. 29

張總司令時局ニ就テ有志及學校職員ヘ對シテ聲明

東三省保安總司令張作霖ハ本月十七日午後二時司令部内奉天總商會長張惠霖以下七十有餘名ト省城學校長以下初、中高、大學校職員二百四十三名ヲ招集シ二回ニ亘リ張作霖直接ニ奉直時局ノ今日ニ至リタル事情ニ就キ自己ノ立場ヲ聲明シ大要左ノ通ノ意味ヲ述ヘタリト云フ

記

張作霖ハ東三省ニ在リ現在ノ職ヲ奉シテ以來三省民ノ爲保境安民ノ精神ヲ以テ諸政ヲ見タルコトハ諸氏モ充分諒解セラルナラン又作霖ハ東三省ノミナラス常ニ國家ヲ思フ精神ハ些ノ變リナク常ニ曹大總統ニハ誠意ヲ以テ事ヲ計リタルニ圖ラサルモ今回遺憾ナカラ直派ト決戦セサルヘカラサル場

關東廳

合トナリタルカ作霖ハ決シテ事ヲ好ムニ非ラス又自己ノ野心ヲ充スルモノニアラス一ニ三省ノ保境安民ノ精神ヨリ事茲ニ至リタルモノナリ
作霖ハ保境安民ノ爲軍ヲ邊境ニ進メ以テ中國ノ危急ヲ救ハント欲ス世上或ハ傳フ戰敗スレハ作霖大連ニ亡命スヘシト流言モ甚タシ作霖ハ身ノ安全ヲ期スルモノニアラス既ニ自己ノ全財産ヲ擧ケ某方面ニ擔保トシテ軍資ニ充テリ若シ利アラサレハ作霖ハ此ノ緣故深キ三省ノ地ニ血ヲ流ス決心ナリ
諸氏ハ右述ヘタルコトヲ特ニ之ヲ誇大ニ吹聴スル必要モナク虛飾スル要モナケレハ各關係者ヘ卒直ニ告ケラレンコトヲ望ム云々

以上

關東廳

亞細亞局

第一課

關機高收第二三〇九〇號ノ一

大正十三年九月二十四日

關東廳

警務局

長

亞細亞局長殿
拓殖事務局局長殿

奉天省城ノ戒嚴施行狀況

本月十七日ヲ以テ奉天省城ニ戒嚴ヲ布告シタルハ既報ノ次第ナルカ右戒嚴
布告後ニ於ケル警戒狀況左ノ如シ

記

省城ハ戒嚴布告ト共ニ各城門ニハ巡警ノ複肖ニ憲兵ノ單肖ヲ配置シ内外通
行人ノ携帶品ヲ檢索シ避難移住者ト見レハ絕對ニ通行ヲ禁止シ日没後ハ
憲警兩複肖ノ外武裝軍隊一個分隊ヲ以テ城門ヲ警戒シ市中ハ晝夜ヲ分々
ス八名ヨリ成ル武裝騎馬隊武裝歩隊數班ニ分チ交互一時間毎ニ間斷ナク巡
察シ深夜十二時後ニ於ケル通行者ヲ取締城内外ノ遊廓地ニハ一個小隊ノ
警衛兵ヲ派遣警戒シ尙ホ稽査隊憲警私服勤務員ハ旅館妓館飲食店等ヲ嚴密

關東廳

視察ヲ勵行シ又大小門西關商埠地ニハ巡警ノ立番個處ヲ増加シ騎馬隊及衛
隊ノ巡察ヲ勵行シ尙ホ衛隊營ヨリ一個小隊ヲ商埠地ニ派遣シ支那兵ノ附
屬地内ノ出入ヲ取締其ノ警戒嚴重ヲ極メアリ

關東廳

77

指揮ヲ乞ヒタルニ直ニ奉天ニ押送スヘシトノ命令ニ接シ支那側ニ於テモ時
節制警戒中ノ折柄トシテ單ニ旅行券ヲ所持シ居ラサルヲ理由トシ同日午後
五時三十分鐵道發列車ニテ同地警察所出動員ハ巡長三名ヲ指揮シ奉天ニ押
送シ同日午後七時三十分奉天若明時自動車ニテ奉天總司令部ニ送致セリ
以上

關 東 廳

機 密
受第 994 號
13. 9. 29

歐 米
支 局

要目付了

亞細亞局 第一課

機密公第三九號

大正十三年九月二十二日

在 奉 天

總領事 船 津 辰 一

綴込名

新



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

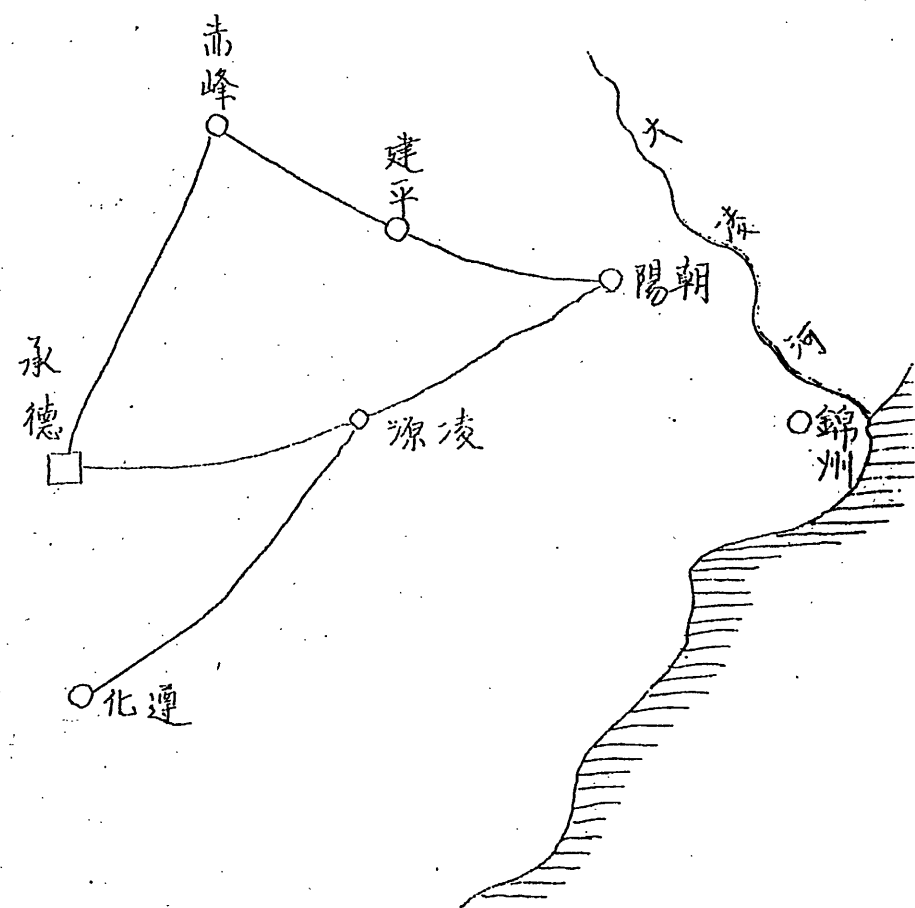
支那

支那官憲ノ米國人逮捕ニ關スル件

耶蘇教布教ノ一米國人教會堂遺設基金募集ノ目的ニテ奉加帳ヲ以テ
鐵嶺城内ヲ徘徊中該地支那官憲ヨリ直隸側密偵ノ嫌疑アリトシテ逮
捕セラレ一昨十八日夜嚴重警戒裡ニ當地憲兵司令部ニ押送セラレタ
リ之レヨリ先キ當地米國總領事ハ該米人ノ逮捕セラレタルヲ聞込ミ
支那側ニ對シ速ニ引渡ヲ要求シタル處支那側ニテハ取調ヲ了セサ
ル限リ引渡ヲ爲ス能ハスト拒絕シタル爲同總領事ハ在奉米國人數名
ニ依頼シ奉天驛到着ヲ待受ケ之レヲ奪回スヘク夫々手配ヲナシタル

在奉天日本總領事館

熱河軍要地要點圖



モ米人等カ一等車附近ヲ徘徊シ居ル内支那側ハ既ニ三等車列車ヨリ
逸早ク嫌疑犯ヲ擁拉直チニ目働車ニ依リ城内ニ運ヒタル爲メ米國人
ノ企圖ハ遂ニ徒勞ニ歸シタル趣ナリ而シテ憲兵司令部ニ於テハ嚴密
ニ取調ヲ遂ケタルニ該米國人ノ行動ニハ何等容疑ノ點ヲ認メス單ニ
寄附金名簿ニ吳佩孚ノ記名セラレルヲ鐵嶺縣知事ニ於テ直チニ直隸
派ノ探偵ナルヘント誤信シ斯ル問題ヲ惹起シタルコト判明シタルヲ
以テ揚總參議ノ決裁ヲ經タル上米國總領事ニ身柄ノ引渡ヲ了シタル
カ米國總領事ハ強ヒテ其身柄ノ領收書ヲ交附セサル趣ナリ
右ハ微細ノ事實ナルモ當地支那軍憲カ時局ニ對シ如何ニ米國人ノ行
動ヲ猜疑シ神經ヲ過敏ニシ居ルカヲ窺知スルニ足ルモノト認メラレ
候間何等御參考迄ニ此段報告申進候 敬具
本信寫送付先 在支公使

在奉天日本總領事館